

平成 19 年 3 月 19 日

電磁波関連研究会出席並びに資料調査 報告書

物理化学系班 増 田 博 代

1. はじめに

電磁波問題市民研究会は 1996 年 10 月より主として電磁波被害の実態を研究する会として発足し、定例会合や会報発行、研究者の研究報告などの定期的活動、各地での講演、および個別の電磁波測定指導や調査などを行っている。この研究会の定例会に参加し研究内容について情報収集を行ったので報告する。

2. 主催

電磁波問題市民研究会（代表 工学博士 野村修身）

3. 日程および会場

平成 18 年 12 月 20 日（水）～12 月 21 日（木）

電磁波問題市民研究会 新宿区消費生活センター

国立国会図書館

4. 内容

本研究会では毎月定例会を行い、電磁波被害の広汎にわたる調査内容の報告と会員相互の情報交換を行っている。今回は 18 名の会員が出席し、主として新東京タワー建設に関する環境影響評価調査計画書が提出されたことに基づき、当会も都環境局に対して意見書を提出した報告があった。都条例の環境評価項目 17 項目に電磁波が入っていないことで、完成すれば世界一高いとされる新東京タワーの電波塔としての環境影響への評価について議論した。このほか携帯電話の基地局からの電磁波被害の実態、オール電化住宅の磁界測定結果、海外の電磁波研究の報告などがあった。また書籍発行の報告も行われた。

5. 所感

本研究会では公式の測定に準ずる精度の高い測定器を用いて各地で電磁波の出張測定を行っている。2 年生の物理実験でのテーマとして報告者が研究を行っている環境電磁波の測定においては、研究予算の不足から低レベルの測定器を使用せざるを得ないが、高精度測定器の結果との比較、データの解析法、さまざまな被害の実態の情報収集等により今後の研究内容への発展を大いに示唆されることとなった。現実に化学物質過敏症や電磁波過敏症の症例も多く報告され、電磁波が生体を与える影響の研究も進み、米国では電磁波は第 2 のアスベストとして注目されるなど、これまで「気のせい」として無視されてきた患者が陽の目を浴びつつあることも大変興味深い。

この研究会に参加し、電磁波問題に関してより最新の情報を得たことで、3 月に開催された名古屋大学総合技術研究会での発表内容に反映することが出来た。また今後の研究に対しこれまでと異なる視点からのテーマの発展に役立てたいと考えている。